

教育長日記（令和3年 8月16日）

青い空に浮かぶ 白い雲 168

— この夏 —

東大和市教育委員会 教育長 真如昌美

そこには心の水族館がある

- 1 第五小学校には以前から水族館がある。
- 2 ずっとずっと前から水族館がある。だから私も五小に行くと、しばらくそこで魚たちを眺め、いつもここで、このままずっと見てもいいかなあ・・・と思うほど気持ちが癒される。
- 3 夏休み前に学校訪問をした。
玄関はいつもと違う雰囲気だった。水槽が大きくなり、なんとその水槽の前には椅子が一脚、二脚、三脚とばらばらに置かれてある。
説明するまでもなく、座ればさらに魚とじっくり話ができる。
- 4 一学期の終業式が終わり、夕方、先生たちも退勤のころ、主幹教諭が市役所の私の事務室にやってきた。そして鞆から一枚の絵を取り出し、私に見せた。
「見てくださいこの絵を、あの時の子ですよ。魚たちの絵を描いて、今日、私のところに渡しに来たんです。」（主幹教諭）
「わかる、わかる、あの時の子どもだよ、よく描けているよ～。うれしいよね～」（私）
- 5 心の水族館から、その子のよさや感性を感じ、しばらく二人で心の水族館の話をしているうちに、子供たちの一学期の終わりを感じた。七月二十日 退勤。



※ 右上の絵は、私の漫画絵です。子供から主幹教諭が渡された大事な絵は、もっともっとうっとうと生き生きしていました（ま）

あの日の一年生

夏休みに入っていつものように「ぶらり学校訪問」をした。
まず、校長先生とあいさつをし、職員室をのぞくと、先生たちが静かに事務をとっていた。日頃の労をねぎらうつもりで、軽く声をかけさせてもらった。
校長室に戻ろうとしたとき、校長先生が一人の女性教諭を紹介してくれた。
「今年教員に採用された先生です。」
さらに続けて校長先生は
「こちらの先生が小学校の入学式の日、式辞を述べてくださった校長先生は、真如教育長でしたと話してくれましたよ。」
驚きました。小学校の一年生だった子、それが今、教師となって東大和市の学校で子どもたちを育てている。
出会い、再び出会う幸せを心から感じた今年の夏。